

NPO 純正律音楽研究会会報 ～2019年2月発行～

ひびきジャーナル



〒168-0072 東京都杉並区高井戸東3-2-5-102 Tel:03-5317-0291
Fax:03-5317-0289 e-mail:puremusic0804@yahoo.co.jp

発行日 平成31年2月20日
発行責任者 NPO 法人 純正律音楽研究会
編集 相坂政夫

No.59



寒い中にも春の足音が聞こえてくるような今日この頃、会員の皆様如何お過ごしでしょうか。

先日、1月14日の「New year concert」には多くの方々にご来場いただき、誠にありがとうございました。この会主催では初めての、代表水野佐知香の長女、荒井章乃と親子で出演して頂きました。また機会があれば親子でコンサートを開催したいと思っております。ご期待ください。

次回のコンサートは、3月30日土曜日、午後2時開演「癒しの音楽コンサート」、市川の山崎パンクリエーションセンター「LLCホール」で開催いたします。今回は、ヴァイオリン、ハープ、箏、チェロの編成で演奏します。多くの方々のご来場をお待ち申し上げます。

なお、9月21日土曜日、同じ「LLCホール」でコンサートを開催する予定になっております。出演者等は未だ決定しておりません。

純正律音楽は、人の心を癒します。
今後とも純正律音楽研究会をよろしくお願い申し上げます。

子供から大人までの教育

洗足音楽大学教授・ヴァイオリニスト
NPO 法人 純正律音楽研究会 代表
水野佐知香

立春も過ぎ暦の上でも春、北のほうでは雪の便りも聞かれています、確実に春はすぐそこまできています。朝、目が覚めて窓を開けると春の匂い、梅の花がもう満開！何か嬉しくなってしまう今日この頃です。

会員のみなさまいかがお過ごしでしょうか？

今回は、教育について少しお話をしてみようと思います。

「三つ子の魂百まで」と昔から言われますが、赤ちゃんは何もわかっていないようですが確実に泣き声で自分のことを訴えます。

「胎教」も大切といいますが、お母さんのお腹の中で5ヶ月を過ぎるといろいろな音を聴いているらしい。時々お腹の中からトントンと返事をする赤ちゃんもいるそうです。この頃に美しいハーモニーの曲をいっぱい聴いたり、美しい物語聞いたりした赤ちゃんはどんな大人になるんでしょう？ぜひ、純正律の音楽を聴いて育った子に出会ってみたいです。

「親は無くても子は育つ！」という説もありますが、やはり親がどのように手をかけるかということはとても大切になってくるのだと思います。「親は子の鏡」とも言われますよね！

才能教育を作られた、鈴木慎一先生は、

「どの子も育つ育て方一つ」

「環境は人の子」

「才能は生まれつきではない」

などおっしゃっています。

私の母は鈴木先生の教えに感動し、共鳴をして一生懸命育ててくれました。私が幼稚園に行っている間に、楽譜の読めない母は、先輩のヴァイオリンママに教え方を聞いて学び、幼稚園から帰ってくると、口三味線で教えてくれたものでした。とにかく一生懸命に、先生に言われたことを私に教え込む毎日でした。

中学生の反抗期の頃には、人生の師となる先生が自宅にいらしてくれるようになり、聴くこと、考えることを養われました。その方は、大学へ行かない選択をして才能教育の先生になられた方で、いろいろな考え方、研究の仕方を教えてもらいました。

私自身娘には、音楽をやりたい時にやれる環境にと思い育てたつもりですが、もっと小さい時に厳しくやっていたらよかったのかどうかは、神様のみがご存知なのでは？と思います。

小さい時に音楽家の親に厳しく練習をされると、ある時やめてしまうパターンもよく聞きます。留学先でやめたお子さんもいるようです。私は教育者として子供達、そのお母様たちに接することも多いのですが、特にヴァイオリンの

勉強は、家でお母様と一緒にする時間も長く多くなってもなかなか、親離れ子離れがある時期がくると問題になることが多くあります。

教師として大切なのは、その生徒さんの中に入り込んでその子のことを理解できるようにしつつ、褒めるのか、怒るのか、なだめるのか！とても難しい問題です。でも、これだけは言えます。「どの子も育つ」とおっしゃった鈴木槇一先生のおっしゃる通りなのです。それぞれの子供達が伸びる時期が違って、幼少の時、小学生、中学、高校生、または大人になってからという人もいて、それぞれなのです。そして、努力は裏切らない！正しいことをコツコツとやっていることで、花が開くと信じます。教育とは待つことも大切だと思いますが、皆様いかがでしょうか？

今の時代、答えをすぐに出さなくてはならないと考える方が多い中、大変なことだとは思いますが！

さて、大学は1月最初の月曜日から授業が始まり、松の内も明けない時からレッスンを始まります。

大学での刺激的な2日間もありました。

ヴァイオリニストの中西俊博さんの講座です。

学生時代以来の再会で、？0年ぶりでしたが、話をしていると学生時代に逆戻り！

でも、彼のこだわりはすごい！

自分の欲しい音を求めるあまりに、ヴァイオリンを改造したり、いろいろな奏法を開発したり研究したり、エレクトリックヴァイオリンが重いために、頰椎が悪くなり首に負担のかからない肩当を開発したり本当に書ききれないほど考えていらっしゃいます。

興味深いお話もいっぱい。7本、9本の弦のついたエレクトリックヴァイオリンを操り、自由自在にその場で足元にある機械で録音をしながら音を重ねていたり、音色を変えたり音楽を表現していく様子は別世界！

一人でオーケストラができてしまうのです。どうやってしているのか？

まず、良い電気を使うこと？エフェクター？リバーヴ？未知の単語がいっぱい！玉木さんがいたらきっと一緒にセッションしていたかも？！と思い、中西さんに玉木さんの話をしたら、とても懐かしがって、アドリブの必要な時にクアルテットのメンバーとして玉木さんに誘ってもらっていたことを話してくれました。「玉木さんって、天才、鬼才だよね!!」と中西さんの一言で玉木さん話で盛り上がりすぎてしまいました。

受講した学生さんたちは、一生に残る宝物をいただいた日でした。

あくる日は、バロック講座！昨日とは全く違う、ピッチもAの音が415と半音くらい低いチューニングでの演奏。バロックヴァイオリンとチェンバロ、バロックチェロ、ヴィオラダガンバとのアンサンブル！生徒たちはガット弦、顎あてのないヴァイオリン、エンドピンのないチェロを膝で挟んで弾いたり、とても貴重な経験ができました。バロックのとても癒される気持ちの良い曲を聴きながら私も勉強させてもらいました。

今年の純正律音楽研究会新春コンサートでは、お琴の吉原さんのご都合がつかなく、娘の荒井章乃とのヴァイオリンデュオ復活になりました。久しぶりで

したが、2000年からやっていた曲は、やはり身体に入っていてすぐに思い出して年月を経て違う味わいも出てきたようで？とても楽しく弾けました。どんどん2人でもコンサートができれば！と思った1日でした。

この日はヴィオラの古川原さんと「躍るサチカ」も演奏しました。

最近、主人が玉木さんの作品のCDを聴いていて、「星とともに」「竹田の子守唄」いいね！と涙を流しています。特に「星とともに」は玉木さんの目指すものが感じられて、美しすぎる！と！

ぜひ、コンサートには必ず弾いてほしい！とオーダーをもらいました。

そうなんです。宝の箱には玉木作品がまだまだ眠っています。

最近、ハーブの三宅さんが楽譜を見に行ってくれています。作曲家の矢澤さんもお手伝いしてくれて、編曲もしてくれています。百人力♥

さあ次は、どんなお宝が…とても楽しみです。

ムッシュ黒木の純正律講座 第58時限目 平均律普及の思想的背景について(47)

純正律音楽研究会理事 黒木朋興

前回に続き、政教分離の問題を見ていきたい。今回はカトリックとプロテスタントの違いの説明に入りたい。

前回見たように、西方世界のカトリック教会は東方世界の正教会とは違ってそれ自体が教皇を頭とした強力な政治団体であることを確認しておきたい。漫画『チェーザレ 破壊の創造者』でも描かれているように、カトリックの聖職者達は王の勢力や貴族達と権力争いを繰り広げていたし、また『三銃士』で有名なルイ13世の宰相リシュリューやルイ14世の教育係として辣腕をふるったマザランも枢機卿、つまりカトリック教会の聖職者であったのだ。教会は政治権力の中に浸透し、というよりまさに権力の一部となっていたのである。

では、教会が政治権力として振る舞うということはどういうことだろうか？アメリカでは、合衆国憲法修正第1条により国教が禁止され信教の自由が認められているということを改めて確認しておこう。信教の自由とは、国家権力がそれぞれの人間の信じる宗教を強制しないということであり、今では当たり前のことだろう。しかし、かつては人々が信じるべき宗教を自由に選べない時代があったのである。例えば、カトリック教会が自分たちに都合の悪い人々に悪魔のレッテルを貼り弾圧した魔女狩りなどを思い起こしてみよう。教会は意に沿わない人々を異端として排除してきたのである。

もちろん、フランスのようなカトリック国家においてもユダヤ教徒やプロテスタントの住民は存在した。しかし、彼らがフランスに住むには厳しい差別を覚悟しなければならなかったのである。差別と言うと、現在日本で頻発するヘイトスピーチのようなものを想像する人が多いかも知れない。もちろんこのよ

うな派手に目に見える差別も深刻だが、アンシャン・レジームにおける異教徒への差別は目立たなかったが故に始末が悪かったと言える。不可視とは、社会制度の外側へと弾かれていたということでもある。例えば、出産、結婚や葬式などを考えてみよう。現在の社会では、このような人生上のイベントには役所に行って手続きをする。出生届を出さなければ無国籍となり満足は教育や医療を受けるのに支障が生じるし、婚姻届を出さなければ夫婦とは認められられないし、そもそも死亡届を出さなければ死体遺棄罪に問われる可能性が極めて高くなる。今でこそこれらの手続きは役所で行うが、アンシャン・レジームにおいては教会で行われていたことを指摘しておきたい。出産は幼児洗礼、結婚は婚姻の秘跡、そして死亡届が病者の塗油という種々のサクラメント＝宗教儀式が教会で執り行っていたことを確認しておこう。当然、カトリック教会でこれらの儀式を行えるのは信徒だけであり、異教徒は当然教会の儀式からは排除されていたのである。カトリック教会と行政と一体になっていたということは、彼らは社会制度そのものから排除されていたことになる。

このように政治権力の核の一つとして機能していたカトリック教会に逆らえば、文字通り社会的に抹殺されることになる。ここで、プロテスタントという言葉の意味が元々「抵抗する」であることを思い出しておきたい。すなわち、強大な政治権力を誇るカトリックに叛旗を翻し、カトリック教会の指導の外側でキリスト教の信仰を実践しようとしたのがプロテスタント諸派であったのである。となれば、プロテスタントが主流となる社会では信教の自由がまず求められるのも当然なことであることも理解できよう。人がどのような宗教を信じようと政治権力は口を出すべきではない、とは、まさにカトリック教会という巨大な権力にプロテスタントの信徒が要求した主張だったのである。

オペラについて

NPO 法人 純正律音楽研究会 初代代表
玉木宏樹遺作

クラシックの歴史を語る時、絶対に重要なのはオペラです。しかし多くの日本人クラシックファンはオペラを観ず、語らず、交響曲を聴きます。小林秀雄氏の「モーツァルト論」はあまりにも有名ですが、モーツァルトは自分が交響曲の作曲家だとは一度も言っていないし、そんなことは全く考えていませんでした。モーツァルトの念願たる目標はただひとつ、世界一のオペラ作家になることでした。

日本人のヴァイオリニストの多くは、ベートーヴェン、ブラームスを中心としたドイツ系の器楽作曲家の協奏曲を重視し、ヴァイオリンがイタリアで生まれたことを軽視しています。イタリア銘器には詳しくても、イタリアオペラに

はあまり関心を寄せません。何だか変ですね。

1500年代ころ生まれたヴァイオリンは、まさにオペラの発展と共に成長して行きます。1600年の少し前に、ジャコモ・ペリたちによって演じられた実験的オペラはモンテヴェルディによって大きく花開きます。日本では、近松歌舞伎の元禄時代のことでした。そしてヴァイオリンの演奏技術もまた、オペラの表現力に合わせ、どんどん改良されて進歩しました。いわゆるトレモロ奏法はモンテヴェルディが編み出しましたが、最初はヴァイオリニストから猛烈な拒否反応にあったそうです。その後もオペラとヴァイオリンは不即不離の関係で発展して行きました。バッハの時代はイタリアオペラこそが芸術の最高峰でしたが、イタリア人こそがマエストロであり、オペラを書かなかったバッハは、いわば田舎者でした。オペラを目指して、イタリア留学して後にロンドンで成功したヘンデルも、いつもイタリアオペラの作曲家より低く見られていました。

戦後、イ・ムジチによって大脚光を浴びた「四季」作曲家、ヴィヴァルディにしても、最初はヴァイオリンを中心とした器楽曲の作曲家とされていました。実は沢山のオペラを残し、今ではオペラ作曲家として見直されつつあります。あのベートーヴェンですら生存中の人気はロッシェニの足元にも及びませんでした。ドイツ人はそんな享乐的なイタリアオペラに反旗をひるがえすかのように、交響曲や協奏曲の器楽曲を発展させましたが、プッチーニのような、誰にでも愛されるようなオペラ作曲家は生まれませんでした。この曲集でもドイツ人は3人しかいません。

曲解説

1. プッチーニ「私のお父さん」

軽オペラ3部作の中のひとつ「ジャンニ・スキッキ」の中の有名なアリアです。とても甘いメロディなのでみなさんお好きじゃないかと思われそうですが、このアリアはお父さんに甘えながら、願いがかなわなかったら河へ飛びこんでしまう、などという物騒な言葉でお父さんを困らせようとしたりします。しかし全体はあくまでお父さんへの甘えの歌なのはメロディ・ラインでも領けます。

この曲こそ、男性までもプリマドンナになった雰囲気でも気持よく歌い上げて下さい。ただし、あまり細部には気を入れず、大らかに全体で表現しないと安っぽい印象になってしまう危険性があります。

2. ビゼー「耳に残る君の歌声」

ビゼーのオペラは「カルメン」があまりにも有名です。しかし、それ以外のオペラは殆ど知られていません。その他のジャンルでもビゼーの有名な曲といえば「アルルの女」でしょうが、この組曲の原型は、ドラマの伴奏音楽、いわゆる業界用語で言う劇判(劇の伴奏という意味)で、純音楽度では低い位置です。ですから本来、ビゼーのオペラからの編曲なら、カルメンの「ハバネラ」辺りが妥当なのでしょうが、私は敢えて選曲から外しました。あまりにもいろんな人が編曲しているということもありますが、最

近話題になりつつあるのが、「ハバネラ」はイラディエル(ラ・パロマの作曲家)からの盗作ではないかという話がどうも本当のようで、避けたわけです。

この曲は実は、アルフレッド・ハウゼというドイツ人によって、コンチネンタル・タンゴに編曲され、全世界に広まりました。ですから、この曲は、ビゼーのオペラではなく、タンゴの名曲だと思っておられる方も多いと思われます。この曲の編曲ではそういう感じも反映できるように、後半は、少しタンゴ風になるような編曲にしました。その部分は是非、リズムとアタックを強調して、タンゴ風な気分になって頂きたいと思います。

3. マスカーニ「カヴァレリア・ルスティカーナの間奏曲」

ワーグナーに押されまくったイタリアオペラが浮世離れした世界から脱皮し、もっと現実に近づき、演劇的に面白いものをめざした、ヴェリスモ運動の一員だったマスカーニ 26 歳の時、新作オペラコンクールに優勝し、世界的ヒット作となりましたが、この出世作以外に成功したオペラは殆どありません。

「カヴァレリア・ルスティカーナ」とは、直訳すれば「田舎の騎士道」です。シシリー島の田舎での恋のさや当てから決闘してしまう悲劇なのですが、その悲惨な最終場面の直前に演奏される何とも天国的な間奏曲です。淡々と、あまり表情に溺れないように演奏して下さい。

4. ヘンデル「私を泣かせてください」

ロンドンに渡ったヘンデルが初めて発表したイタリアオペラ「リナルド」の中の Aria で、サラ・ブライトマン、本田美奈子の歌声で有名になり、CM にも使われました。恋人を想って自分の悲運を嘆く Aria です。この曲は単純すぎるメロディなので、かなり気を入れて歌わないとサマにならないでしょう。サラ・ブライトマンの歌い方が大いに参考になると思います。

5. レハール「メリー・ウイドウ・ワルツ」

世界中で誰ひとり知らない人はいないだろうと想われるくらい流行ったメロディです。オペレッタ、メリーウイドウ(陽気な後家さん)には楽しいメロディがいっぱいです。「さあ、マキシムへ行こう」は、ショスタコヴィッチが交響曲 No.7 で流用し、日本ではカイロの CM、チチン・プイプイでも有名になりました。

このワルツは素直に奏いても胸にしみわたるメロディです。淡々と奏いた方がいいでしょう。

6. ボロディン「ダッタン人の踊り」

ボロディンの未完のオペラ「イーゴリ公」の中の有名な曲です。残されたスケッチから、リムスキー=コルサコフとグラズノフが 2 年かけて完成したとされています。1956 年には「キスメット」というブロードウェイ・ミュージカルの中で「ストレンジヤーズ・イン・パラダイス」という曲に編曲され世界中で大ヒットしました。ところがここで微妙な問題が起こったのです。「イーゴリ公」の著作権を継承した亡命ロシア人たちが著作権侵害で訴えました。しかしブロードウェイ側は、ボロディンの作曲だから著作権は切れているはずだと反論。ここでロシア側の言い分は、ボロディンの作だと断定で

きる根拠はないと主張しました。ボロディンの残したスケッチというのは非常に少なく、殆どはR=コルサコフとグラズノフの創作だということです。で、いろいろ調べましたが真相は分からず、一部でささやかれているのは、序曲がグラズノフの作、「ダッタン人」はR=コルサコフ作とされています。

それはともかく、このエキゾチックなメロディは、アドリブでメリスマ(いわゆるコブシ)を加えてもいいでしょう。

7. プッチーニ「わたしが町を歩くと」

プッチーニの代表作「ラ・ボエーム」の副主人公ムゼッタのワルツです。主人公のミミは結核病みですが、ムゼッタは健康そのもの、自由奔放な人生を謳歌しています。自信たっぷりで男をひきつける魅力をふりまくムゼッタ、そういう気分で奏くと、とても面白い曲になります。

8. モーツァルト「鳥刺しパパゲノ」

モーツァルト最後のオペラ「魔笛」の始まりでうたわれる有名なアリア。モーツァルトも長い間、イタリア語でオペラを書いていたが、彼の理想はドイツ語でオペラを書くことでした。このオペラのストーリーはかなり破綻しており、全体的には矛盾だらけなのですが、モーツァルトの音楽によって救われ、今でもよく上演される作品になっています。モーツァルトはドイツ語のオペラらしくするためか、随分ドイツ民謡風の曲を多く書いています。この曲もそういう雰囲気を持って演奏して下さい。決して、モーツァルトの芸術だと、構えないように。

9. フンパーディンク「ヘンゼルとグレーテル・メドレー」

もちろん、ワーグナーの影響を受けたフンパーディンクですが、こんなに分かり易い子供用のオペラを書きました。少し前まで、クリスマス前の定番でもありました。この曲もモーツァルトの流れをくんだドイツ民謡風の曲が充満しています。

私事ですが、皇太子のお嬢さん、愛子さんのお誕生を祝したCDの制作に関係したとき、この「ヘンデルとグレーテル」の中の曲を編曲しました。そしてその編曲は、ヴィオラを演奏なさる皇太子のために、ヴィオラ独奏用の空オケを作りました。

殆どが民謡風なので、そのまま、素直に演奏されるのがいいと思います。

10. ロッシーニ「セヴィリアの理髪師、序曲」

いわゆるイタリアオペラの絶頂だったロッシーニの活躍中の人気は圧倒的にベートーヴェンを凌駕していました。超売れっ子のロッシーニは新作オペラの序曲が間に合わないとき、以前に作って流行らなかったオペラの序曲を流用しました。この序曲も実は、以前のオペラからの流用で、「ひどい誤解」「パルミラのアウレリアーナ」「イギリス女王エリザベス」と全く同じで、4回目の流用です。それに比べ、たったひとつの売れなかった「フィデリオ」のためにベートーヴェンはなんと4曲の序曲を書きました。この違いは……。

この曲をピアノ伴奏用に編曲した他者の譜面は見たことがありませんが、この編曲をリズム感良く、スピード感あふれた演奏をすれば、コンサート・ピースのイントロとしては最高な曲になると思います。

11. ポンキエルリ「時の踊り」

プッチーニの先生だったポンキエルリは生存中いろんな曲で成功を収めました。今では唯一、オペラ「ジョコンダ」の作曲者として記憶されています。悲劇の結末の前に踊る能天気な舞踏会シーンのバレエ音楽なのですが、この曲はディズニー映画「ファンタジア」に使われて一気に有名になり、その後、歌に編曲された「レモンのキス」がナンシー・シナトラの歌声で世界中に広がり、特に日本で大ヒットしました。

あくまで軽やかに、ダンス曲の雰囲気重視して、純音楽的に演奏しない方が、曲が生きると思います。

CD レビュー 純正茶寮
『アンダーグラウンド』
純正律音楽研究会理事 黒木朋興



『アンダーグラウンド オリジナル・サウンドトラック』

Goran Bregovic

レーベル： マーキュリー・ミュージックエンタテインメント

ASIN: B00005FEDO

JAN : 4988011348822

以前、紹介したことがあるかも知れない。

フランスのカヌヌ映画祭で最高のパルムドールを受賞したエミール・クストリツァ監督の『アンダーグラウンド』のサウンドトラックである。

有名なバルカンブラスの音も爽快なまさに純正律音楽の名にふさわしい響きである。また、ヴァイオリンのデヤン・スパラヴァロも超絶的なテクニックが聴けるのも嬉しい。

フランスに住んでいた頃、マルセイユに彼らのバンド、エミール・クストリツァ&ノー・スモーキング・オーケストラが来た時、その抱腹絶倒もののヴァイオリンを始め、素晴らしい演奏に圧倒された。

今回、このクストリツァを取り上げるのは音楽上の理由だけではない。それは政治的ものである。一昨年、彼の最新作『オン・ザ・ミルキー・ロード』を観て、言いようのない奇妙な感じに捉われた。それまでは、戦争によって引き起こされた悲惨な状況を描きつつも、最後は未来への希望を持たせるエンディングで締めくくられていた。それがこの作品では、本当に希望のない終わり方をしているのだ。

すると、先日バルカンブラスを調査している方に、クストリツァの最新情報を教えていただいた。クストリツァは父親がセルビア系で母親がムスリム系の家族の出身なのだが、このところ大セルビア主義に影響を受け、セルビア正教に改宗しセルビア名ネマニャを得たそうなのだ。

『オン・ザ・ミルキー・ロード』のラストでは、主人公が独りで破壊された正教会の聖堂を修復するシーンで終わる。その意味が掴みきれなかったのだが、それが大セルビア主義への傾倒の表れだとすればとても悲しい。

優れた作品を数々ものにした人であるだけに、そういう文化人でも民族主義に陥ってしまうことがあるのかと思うとゲンナリする。

台湾における宗教事情の若干と 法輪大法の抗議行動

純正律音楽研究会 正会員
弁護士 齋藤昌男

第1. 序

2018年10月20日から22日まで、河童連邦共和国の第31回サミット in 台北に出席するために台湾を訪れました。21日には、台湾ヤマザキにワゴン車を出してもらい、台湾を代表する寺院4ヶ所を回りました。22日には、台湾を代表する仏教寺院龍山寺を訪れましたが、その前に十份というところで、天燈上げを体験し、台北101の前の広場で法輪大法の抗議行動に出会いました。貴重な体験であるので、これらも記す事にします。

第2. 指南宮（台北市指南山）

1. 台湾道教の総本山であります。台湾の宗教統計を見ると、道教、プロテスタント、仏教、カトリック、儒教の順となっています。面白いのは、中国本土でも、プロテスタントとカトリックとを合わせてキリスト教と言わずに分けています。彼等にとっては、別々の宗教に見えるらしい。
2. 指南宮は台北市文山区木柵東部の指南山の麓にあります。海拔285メートルの位置にあります。指南宮の俗称は「仙公廟」と言い、孚祐帝君を祀っています。孚祐帝君は八仙の中の呂洞賓のことで、仙人になった後、時おり人間界へやって来て、人々を迷いから導いたと言われております。指南宮

は、前述の如く道教の総本山なのですが、約1200年という歴史の中で、仏教も儒教も受け入れ、3つの宗教が一つの廟の中にあるということで、本土を含めた中国では比較的多く見られ、三教一致と言われていました。中国においては、当初の段階では儒教、道教、仏教の間に軋轢が生じることもありました。宋代以降、三教一致が中国の宗教の基本構造になっています。

3. 日本統治時代、仏教の推進のために道教が抑えつけられていたため、指南宮は「観音殿」と名を変えて、そのまま基盤を残しました。統治が終わった後、大雄寶殿の左側に純陽殿を建て、昔の外観を復元しました。そのため「大雄寶殿」にはお釈迦様や菩薩像などの仏像があります。

4. 大雄寶殿の後には、凌霄寶殿があり、2360坪あまりの大きな建物で、玉皇大帝という最高神が祀られています。凌霄寶殿には60体の太歳神が祀られた「太歳殿」があり、太歳神とは中国の道教に伝わる太歳の神であり、崇りの神だと言われております。十干と十二支を組み合わせた60で、60体もあると、なかなか圧巻です。

第3. 行天宮（民権東路二段109號）

1. 行天宮は、道教のお寺で、日本にも横浜中華街や神戸中華街にある関帝廟です。10月21日は、日曜日と言う事もあり、多くの参拝客がおり、台湾人一人一人の祈りの時間は大変長く、台湾人の信仰心が強いのは驚かされます。

2. 関羽は、裏切りが日常の中国の武将のなかで、最後まで節を曲げずに劉備に忠誠を尽くしたため、信用の神すなわち商業の神様として信仰されています。関羽は一介の武将でありましたが、宋代にその忠節がたたえられ、帝の称号が授けられました。以後関帝若しくは関聖帝と呼ばれ、広く人々の信仰の対象となっています。

3. 関羽は、三国蜀の武将で、張飛とともに劉備に従いました。200年（建安5年）正月、劉備が曹操に敗れた際、関羽は曹操に捕えられましたが、4月白馬の役で曹操のために袁紹の将顔良を斬り、劉備の下に帰りました。赤壁の戦いに大功を立て劉備の益州攻略の際には荊州にとどまりました。呉と魏と連合して関羽を攻めて、関羽を殺しました（以上、関羽の略歴は京大の東洋史事典170ページ乃至171ページ参照）。

第4. 孔子廟（大龍街275號）

1. 台北の孔子廟は光緒5（1879）年の創建で、建設当初の孔子廟は台北城内の小南門付近にありましたが、日本統治時代に病院へと変わり、1907年には取り壊されて学校となりました。その後1929年に現在地に再建され、大成殿が完成し、翌年以降、門や明倫堂が建てられました。台北の孔子廟は、典型的な福建省南部の建築様式だそうです。東京湯島の孔子廟に比べて明るい感じのするものです。

2. 孔子廟の外壁に「萬仞宮牆」の文字が書かれていますが、孔子の77代目の子孫にあたる孔徳氏が書いたものだそうです。萬は数量の大きさ、仞は長さの単位で、学問の深さを表しているそうです。そして畚は穀物をしまう倉、片は細長い板で倉などの周りを囲うへの意味だそうです。

3. 「大成殿」の周りには六芸の部屋があります。六芸とは孔子の時代、学生

達が学んでいたもので、次のものを意味します。

「礼」祭祀の礼

「楽」声楽、楽器、舞踏

「射」弓術

「御」馬術、馬を操る5つの法則

「書」識字、習字

「数」数学、天文学、物理学

4. 日本の孔子廟「湯島聖堂」を簡単に紹介しておきましょう。徳川5代将軍綱吉が儒学の振興を図るため、元禄3年（1690）湯島の地に聖堂を創建して上野（忍ヶ岡）の林羅山の邸内に設けられた孔子廟（先聖殿）を移転し、先聖殿を大成殿と改称したことに始まります。こののち、寛政9年（1797）11代家斉のとき規模を拡大し「昌平坂学問所」を開設したものです。

第5. 保安宮（MR T圓山駅）

1. 孔子廟から道路をはさんだ北西にある趣のある廟であります。建立は1742年で、疫病の流行に伴い、中国福建省泉州府同安県出身者たちが、故郷白礁にある慈濟宮から分霊し、この地に祀ったのがはじまりと言われております。当時は住民の数も少なく乏しい財力の中、建てた木造の粗末な廟でした。その後何度にもわたり再建され、今日の姿になっています。

2. 保安宮は鯤鯓の龍山寺、清水の巖祖師廟と並んで、台北の三大寺廟と称されており、国家第二級古蹟にも指定されています。主神として祀られているのは保生大帝（979年—1036年）という実在の人物です。幼い頃から聡明で、宋の時代に名医として名を馳せたと言われております。

3. 台湾は福建省からの移民が多いのですが、移民がいかに大変であったかを表わすものとして、「3, 6, 1」と言う数字を使った表現があるそうです。10人来たなかで、3人が成功して台湾に残り、6人は帰国し、1名は亡くなったことを表わすものだそうです。その大変さが忍ばれます。

第6. 龍山寺（廣州街211號）

1. 1738年創建の台北最古の仏教寺院であります。市内でも最も格式が高く、国の2級古跡に指定されています。元々が仏教寺院でありますから、觀世音菩薩、文殊菩薩、普賢菩薩、薬師如来像は、当然の事として、赤い糸伝説で有名な恋愛成就と良縁の神様月下老人（これは道教から来ている）、前述の行天宮の本尊である関聖帝君、運命全体と司る学問の神様として知られる文昌帝君、その他民間信仰の神像を入れると、実に100以上の神様が祭られています。

2. ここで台湾の「お祈りの仕方」を紹介しておきましょう。台の前で一礼した後、左足から台に跪き、跪いた状態で一礼し額をつけて3回拝礼します。3回拝礼する際、女性は手のひらを上に、男性は手のひらを下にして台にのせます。右足から立ち上がり一礼し終了です。男女の手のひらの向け方の違いは、女性は陰、男性は陽と昔から伝っているためと言われております（Wikipedia）。

第7. 十份の天燈上げ

1. 台湾では中秋節などの節句のときに天燈を上げる風習があります。台北から車で1時間弱の十份に行けば、節句に限らず何時でも体験出来ます。願い事を天燈に書いて浮かべると叶うと言われていました。

2. 行ってみて驚いた事に、願い事をランタンに書いて、鉄道の線路上へ移動し、そこでランタンに着火して、ランタンの中に熱い空気が充満するのを待って、手を離すと、ランタンはあっという間に舞い上がります。鉄道の線路は、廃線の後かと思っていたら、現実には列車が来ましたから驚きました。日本ではとても許されない事です。

3. この風習は、何処から来たのかガイドに聞いてみたところ、昔、移民で台湾へやって来て、手紙を出す事すら不可能であった故郷の人々に、せめてランタンに思いを書いて、伝え様としたのだとの説明を受けました。

第8. 法輪大法 (Falun Dafa) (法輪功)

この際、台北101の前の広場で出会った法輪大法と中国の宗教弾圧について、記しておきたいと思います。

1. 言論統制を拠り所として成り立っている江沢民独裁政権が、6,000万人の共産党員を上回る法輪大法学習者の数に脅威を感じ、江沢民は、自分の政権を維持していくために、1999年7月20日、法輪大法に対して弾圧を始めました。それ以来、何千人もの人々が不法に逮捕され、拷問を受け、強制収容所に送られています。

2. 法輪大法は、法輪功と呼ばれる中国の伝統的な心身鍛錬法で、簡単でゆったりとした動作と瞑想を行い、自分の心を修めることによって、心理的、身体的な向上をはかるものだそうです。この功法は、真・善・忍の原則に基づく心身鍛錬の実践方法であるそうです。気功の一種と言えましょう。しかし、中国政府は、法輪大法を宗教団体であるとして弾圧を繰り返しています。2017年5月現在、4081人以上の人が拷問で死亡し、10万人以上が今なお拘束され強制労働をさせられており、2万5千人以上が刑務所に送られ、1000人以上が精神病院に監禁されているそうです。抗議現場にあった中国語のチラシによれば、中共は建政69年で八千万人の中国人を殺害したとあります。

3. 法輪大法の他に習近平による中国の宗教弾圧については、大きな問題として、次の3つがあります。

(i) 中華人民共和国政府が最も警戒する宗教家は、チベット仏教法王、ダライ・ラマ14世であることは、衆目の一致するところであります。実は鄧小平が中国の最高指導者であったいわゆる「改革開放」の時代においては、中国共産党はチベットに対して一定の歩み寄りを見せていました。しかし、2013年に登場した習近平政権は、宗教全般に厳しい統制を加え始めました。ダライ・ラマ14世は、現在84才です。チベットの高僧は、亡くなるごとに生まれ変わります。それを「活仏」とか「化身」と呼びます。この活仏について2014年ころから、「すべての活仏は中国の宗教当局の認定を得なければならない。」としてきました。この活仏やダライ・ラマといった存在は、あくまでチベット人、およびチベット仏教徒のためにあります。

- (ii) 中華人民共和国の西端に位置する新疆ウイグル自治区は、ウイグル人たちが暮しています。彼等は、漢民族と容姿も言語も文化も違います。なによりもウイグル人達はイスラーム教徒です。13億人にのぼる中国の人口の中でイスラーム教徒は、わずか1.7パーセントの2,300万人で、その内の約半数がウイグル人です。1949年、中国はこのウイグル人達が住む土地を侵略し、1955年に新疆ウイグル自治区を設置しました。しかし、「自治区」とは名ばかりで、弾圧を行ってきました。2013年に「紅い皇帝」とも称される習近平国家主席が誕生して以来、弾圧は激しくなっています。2016年1月には「テロ対処法」という法律が出来、例えばウイグル人がメッカへ巡礼の旅に出かけたいと希望しても、この法律を盾に禁止されるそうです。
- (iii) もう一つの大きな問題として、中国にいるカトリックの司教の任命権の問題があります。しかし、最近話し合いに入ったそうですので、これ以上は触れません。

第9. 結語

最後に、もう一つ言わせてもらいます。「台湾独立」という言葉がありますが、台湾は中国共産党から実効支配されていない以上、台湾が中国から独立するということはありません。実際に独立している台湾は、何処から独立する必要があるのでしょうか。

以上を見て来ると、「信教の自由」一つ取っても、台湾は素晴らしい国であります。台湾人の信仰心の深さといい、また法輪功による自由な反対運動といい、半永久的に継続することを祈るばかりであります。

以上

(2018年10月31日脱稿)

30年前のプログレ三部作の復刻 CD について

NPO 法人 純正律音楽研究会 初代代表
玉木宏樹遺作

1975. 1979. 1980年に私が作成した、LP プログレ三部作「タイムパラドックス」「シンセサイザー交響曲」「存在の詩」の復刻版 CD が2009年に発売されました。作成当時の音楽状況や社会状況を書いてみます。

プログレというのはプログレッシヴ・ロックのことであり、直訳すれば、前衛的、または先進的ロックということになりますが、何も現代音楽風というわけではありません。ピンク・フロイドのころから、イギリスを中心にしたヨーロッパではやり、アメリカ系ロックが、プレスリーのロカビリーや R&B(リズム・アンド・ブルース)系の少し不良っぽい風俗なのに対し、どちらかといえばクラシックのテイストや、シンセサイザー等の電子楽器を多用し、歌ものよりもインストものを中心とした、高い音楽性を狙ったミュージシャンたちです。

ピンク・フロイド、キング・クリムゾン、イエス、ELP(エマーソン、レイク&パーマー)、UK 等々続々とカッコいいバンドが生まれました。ノリー発の不良系ロックよりも、音楽性を重視するため、あまり女の子には持てませんでした。

私が 32 の時にリリースした「タイムパラドックス」は、すべて私のオリジナルで、エレキ・ヴァイオリンと生ヴァイオリンを駆使して暴れ回っており、このアルバムと「雲井時鳥国」と「存在の詩」の 3 枚は、一時期、日本プログレの金字塔と言われ、知らない奴はモグリだ、と言われていたこともあったそうです。私は 20 代の半ば(1960 年代の終り頃)ころから、日本で一番早くエレキ・ヴァイオリンを奏いてジャズやロックを録音しています。芸大出身のヴァイオリン奏きなのにどうして？ それを少し説明すれば自ずと時代背景もよく分かるでしょう。

私は神戸のとて貧しいうちで生まれ育ち、ピアノやレコードプレイヤーなんか全く無縁の世界の中で、小学校 4 年生からヴァイオリンを始めました。上達は驚くほど早く(と、人に言われた)、6 年生の時にはメンコンを人の前で演奏しました。そして中学になって大阪の相愛音楽教室では、うちにピアノがないにも拘わらず、すべての音の高さが分かり、関西の天才児と言われ、芸大附属高校を受験しましたが、見事落ちました。当然でしょう。音程はいいけどやたら指を回すだけのロボットの演奏で、音楽とは全く無縁の世界でした。しかも、日に 1 時間も練習をしない怠け者でしたから。

この受験失敗は私にとって非常にプラスになったと思っています。大阪音楽大学附属高校に入った 2 年生の頃、梅田の地下街で知った戦前版のマックス・ウェーバーの「音楽社会学」の中に書いてあった、全音に大小あり、半音にも大小ある、という純正律の存在を知ってびっくり仰天し、これは芸大へ行かないと教えてもらえないぞ、という今でいうモチベーションがグリーンと高くなりました。そして 3 年生になったある日、あるヴァイオリンの協奏曲のメロディの美しさにしびれ、今まで自分は全く音楽をやっていなかったんだ、美しいメロディは美しく奏かなきゃと気づき、それからは毎日 2 時間くらいさらって芸大に受かりました。あとで聞いたのですが、私は相当高い点数で入ったようでした。

さて、純正律の勉強ができると思気込んでいたある日、弦楽合奏の先生から「君たち、ドとミの長 3 度はミを高くしないと協和しない、短 3 度の時はミのフラットを低くしないと合わない」という信じられない間違いを言われ、そのことに悩み続け、いろいろ勉強して来た私は我慢ならず「先生、それは違います。長 3 度のミは低くしないと合いません」と言うと先生はやってみろ、と言うので仕方なく私は実演で証明しますと、その先生は理不尽にも怒り出し、私を追い出して「君とは 4 年間のつきあいがあるんだからな」と脅しまでかけられました。

私は憧れの芸大の先生から嘘っぱちを言われ、脅しまでかけられて深く絶望し、当時フツフツと湧き上がりかけていた帝国主義的打倒運動に激しくシンパシーを感じ、全くヴァイオリンをさらわなくなって、学内でも今では考えられないような問題を起こして、大学からも激しくにらまれました。私はもともと作曲をやりたかったので、坂田晃一氏(「おしん」の作曲で有名)のすすめに

従って、当時商業音楽でトップクラスに売っていた山本直純氏の工房に入り、凄まじい修行を受けました。また直純さんは私のヴァイオリン演奏を重宝して使いまくり、ジャズ、ロック、ウェスタン、演歌等のアドリブを通じて、その時の超一流のミュージシャンたちとも知りあえました。

私が直純さんから独立したのが 1968 年頃だったと思います。最初の仕事は虫プロのマンガ「アニマルワン」、円谷プロの「怪奇大作戦」そして今にもつぶれそうな日活にもよく出入りしました。ギャラは信じられないほど安かったのですが、何をやっても OK の超自由な雰囲気の中で私は自分の弦楽四重奏団全員をエレキ化したりしても、スタッフは興味津々という感じでした。

学生運動に呼応するかのようになり、世界中のジャズやロックは革新の嵐が吹きまくり、ブラスロックの雄「シカゴ」が活動を始め、ELP へとつながって行きます。一方ジャズでは、電化した 16 ビートで旧式のモダン・ジャズを破壊して衝撃を与えた、マイルス・デヴィスの「ビッチェズ・ブリュー」も 1970 年でした。

1968 年頃から世間を騒がせた全共闘学生たちの大学紛争は、翌年の東大安田講堂事件を経て、1970 年のヨド号ハイジャック事件で日本は大揺れ。そして 1972 年には、あのおぞましい「あさま山荘事件」で最終局面を迎えます。

当時私が聴きまくっていた音楽は、シカゴ、「ビッチェズ・ブリュー」、バカラック。そしてモータウン・サウンドや R&B で、今復刻されている日活ニューシネマの音楽 CD には、色濃くそういう影響を受けた音楽が充満しています。時代劇に最も縁遠い作曲家として私が選ばれた「大江戸捜査網」も担当したりしましたが、やがて日活は方針転換してロマン・ポルノとなり、私は日活から離れ、それまでのアクションものの世界から、お洒落路線の CM 音楽に転向しました。そんな訳の分からないゴタゴタの世界の中で、なんとかして自分の道を探し、確立したい、と思っただけなのに「タイムパラドックス」でした。

この一枚の LP の中に私はそれまでの音楽経験すべてを反映しようとしてしました。ブルースに始まり、カントリー・ウェスタン、クラシック小品、インド音楽、ディスコ、バッハ、そして ELP の世界……。まわりからは「お前、やりすぎだよ、もう少しやりたいことを絞らないと誰も聞かないぞ」と言われましたが、私は一度しかない人生の中で、クラシックというジャンルだけに自分を閉じこめるのに猛烈に反発したわけですから、一つのジャンルに拘らないことこそが、私の主張だったわけです。実はそれ以上に、ヴァイオリンへの思い入れも激しかったのです。こんなにいろんな可能性のある楽器をクラシックだけに閉じ込めるのはかわいそうじゃないか、というわけです。

このあと、年男の 36 歳になった 1979 年、何かを決めなきやと考え、3 管編成のオーケストラと、シンセサイザー 8 台の共演による交響曲のライブ演奏、ライブ録音を企画し、東京フィルハーモニーとシンセ奏者(私も含む)による新宿文化センターのライブコンサートを実現し、ソニーレコードが録音して LP が完成しました。この時期というのは世界標準の MIDI がまだなく、今から思えば全く無謀なことをよくやったな、と感慨もひとしおです。MIDI(ミュージック・インストゥルメント・デジタル・インターフェイス)というのは、何台ものシンセをコンピューター制御で同時演奏させるプロトコルです。こんな便利なものが

出現する以前でしたから、指揮をしてくれた尾高さんはヘッドフォンでリズム・マシンの音を聞きながら棒を振り、一台以外のシンセは全部手弾きでした。世界中にこんな無謀な演奏を録音したのは私以外に皆無のはずです。

画期的な LP はできあがったのですが、とにかく難関の連続。しかも 150 人くらいの人を巻きこんだ大騒動に私の神経は極度にすり減り、ボロボロになりました。それでも虚無感からたちあがるために決心したのは、次は迷惑かけるのは極端に少人数とし、出来る限り自分の責任で作り上げるということでした。当時流行っていて私も影響を受けていた、バクワン・シュリ・ラジニーシの「存在の詩」をもとに、自分で作詩作曲し、しかも自分の声を 16 回重ねて、純正律的コーラスの世界を表現しようと思い立ったのです。私は、コーラス、ヴァイオリン、マンドリンを演奏し、それ以外のリズム隊とハープをお願いして出来あがったのが「存在の詩」です。

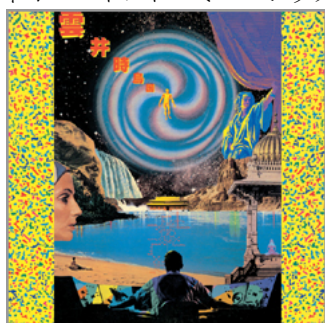
さて、このあとはどうなったのでしょうか。私は一段落した感じがし、もう一度、この 3 枚の LP のことを振り返りました。そして気づいたのは「雲井時鳥国」の 2 楽章に於ける、打ち込み自動演奏のシンセによる、人間技をコバカにするような超ハヤ弾きの連続に私は大変な危険を感じ、すばっとシンセの世界から離れました。そしてもういちどクラシックの弦楽四重奏団をたちあげ、クラシック世界(といっても当然、玉木ワールド)で CD を 30 枚ほど作り、NHK の教育番組「ゆかいなコンサート」に 2 年間、出演したりして、もう一度クラシックの世界に戻り、何となく現在に到っております。私の紆余曲折の経験は、ストリング誌の連載や「革命的音階練習」にある程度反映できているか、と思っています。今後とも、宜しくお願い申し上げます。

*ロックと呼ぶべきか？ 飛翔する感動のイマジネーション
ヴァイオリン&モーグシンセサイザーの万華鏡の世界【タイム・パラドックス】(1975年リリース)
*大編成のオーケストラと命を吹き込まれたシンセサイザーによる
奇蹟のシンセサイザー・シンフォニー シンセサイザー交響曲【雲井時鳥国】(1979年リリース)
*多重ボーカルとシンセサイザーとのかくも大胆なる共存。驚くべき透明なサウンドが誘う
究極のオーガズム。

天体的スケールと調和の世界 ネオ・マインド・ミュージック【存在の詩】(1980年リリース)



タイム・パラドックス



雲井時鳥国



存在の詩

今後のスケジュール

【癒しの音楽コンサート】

2019年3月30日土曜日 14時開演

会場：山崎製パン 飯島藤十郎社主記念 LLC ホール

出演：水野佐知香(Vn)、三宅美子(Hp)、吉原佐知子(箏)
ベアンテ・ボーマン(チェロ)

【癒しの音楽コンサート】

2019年9月21日土曜日 14時開演

会場：山崎製パン 飯島藤十郎社主記念 LLC ホール



おたより募集！

会報のご感想、ご意見、純正律音楽にまつわること等々、なんでもお寄せ下さい。たくさんのお便りを、お待ちしております。

次号の【ひびきジャーナル】にてご紹介させて頂きたいと思っております。
〒168-0072

東京都杉並区高井戸東 3-2-5-102 NPO 法人 純正律音楽研究会

お電話：03-5317-0291 FAX：03-5317-0289

e-mail：puremusic0804@yahoo.co.jp

<http://just-int.com/>

平成 31 年 2 月 20 日 発行責任者：NPO 法人 純正律音楽研究会

編集：相坂政夫